

国際協力イニシアティブ



大学の知を活用したESD国際協力モデルの形成
2009

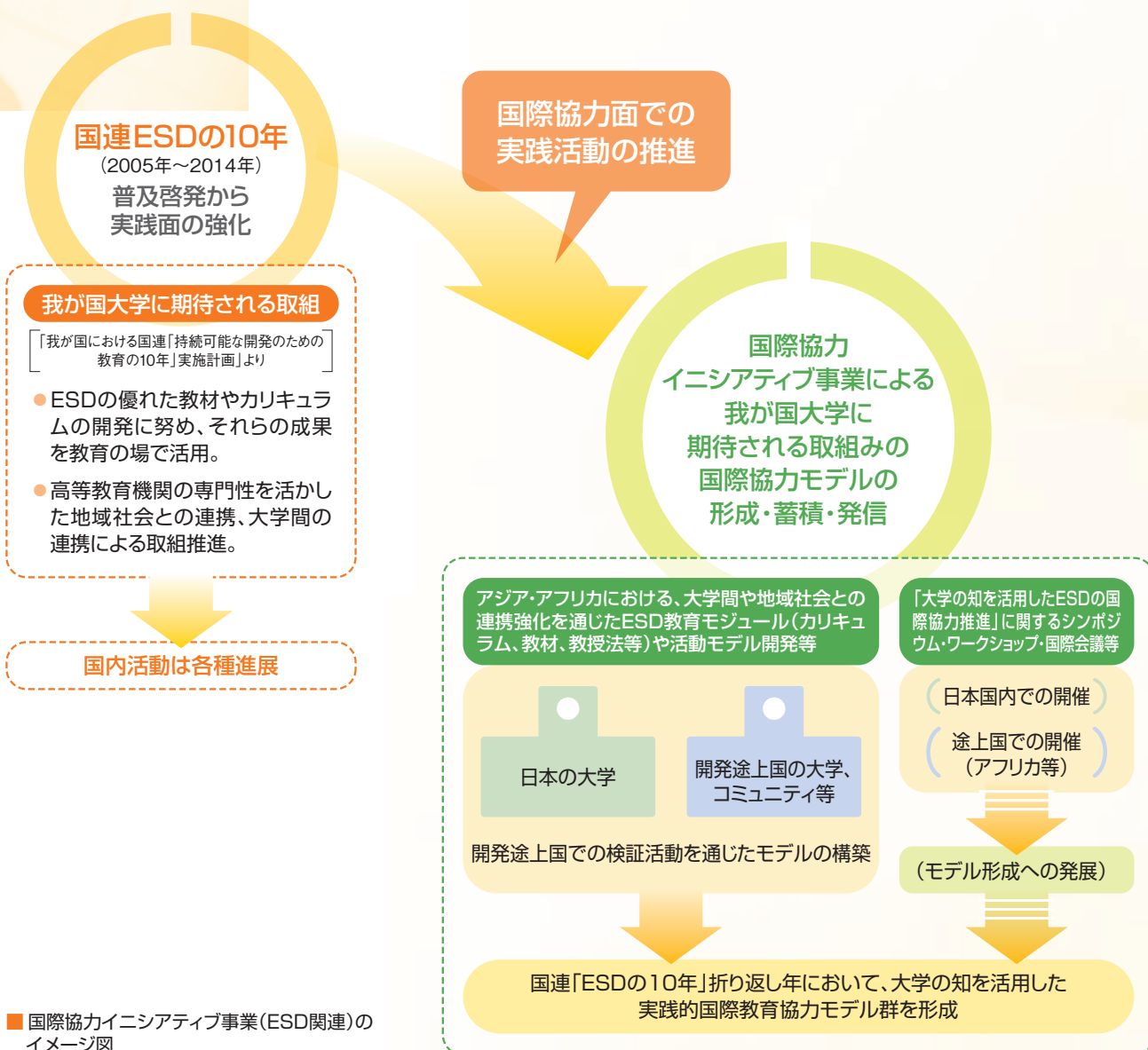


文部科学省

大学の知を活用した ESD国際協力実践モデルの 形成促進

これまで、国際社会において、国連「持続可能な発展のための教育（ESD）」の必要性、基本的概念及び目的について議論が重ねられ、その将来世代への重要性が認識されてきています。また、国連「持続可能な発展のための教育の10年（DESD）」が中間年を迎えることもあり、ESDには理論面の整備に加えて実践面の一層の強化が求められています。

このような状況の中、文部科学省では国際協力イニシアティブ事業により、2008年度より、我が国大学が有する知見を活用し、海外の大学等と連携しつつ、ESDに携わる多様な関係者が現地において活用可能な実践的な教材や活動モデルの開発等に取り組んでいます。



■ 国際協力イニシアティブ事業(ESD関連)のイメージ図

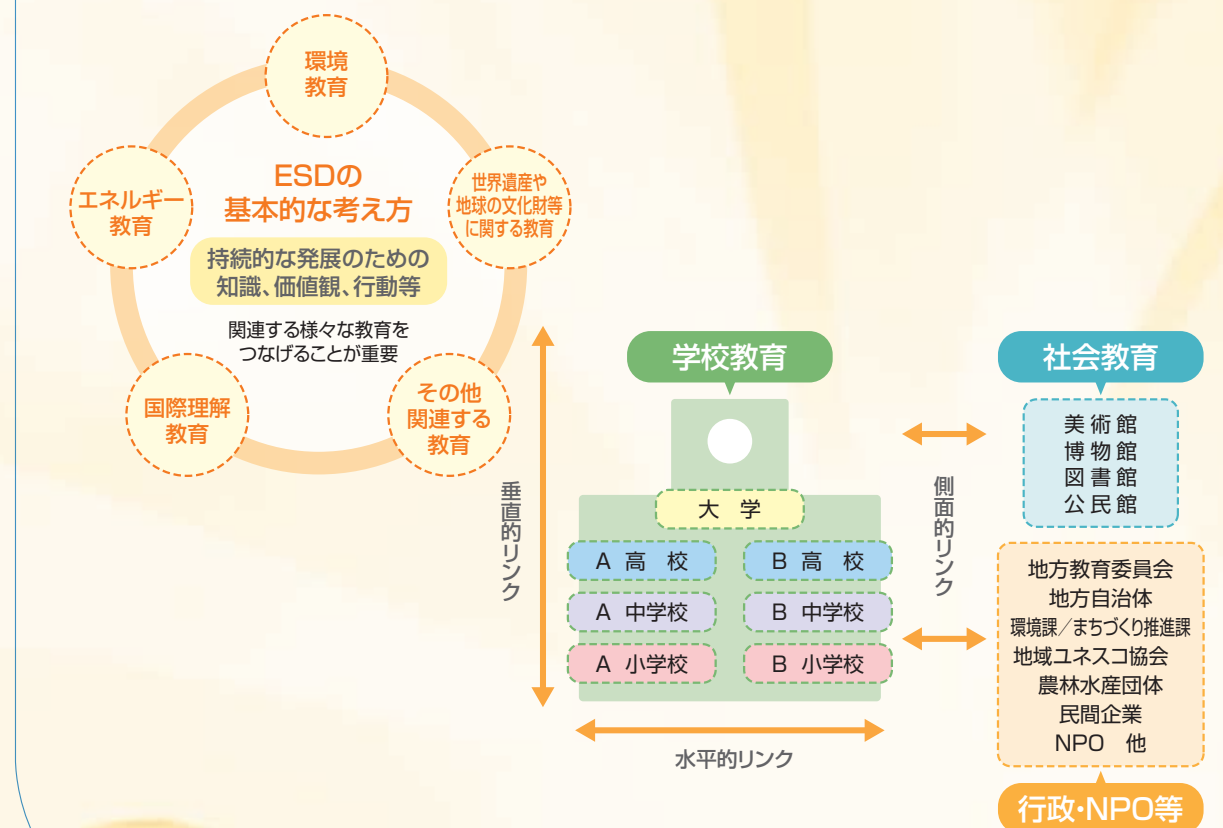
持続可能な発展のための教育(ESD)とは

ESDは、言わば、持続可能な社会づくりのための担い手づくりです。ESDの実施には、特に次の観点が必要です。

- ① 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ② 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境、経済、社会の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要です。

2002年の国連総会において、我が国の提案により、2005年から2014年までの10年を国連「持続可能な発展のための教育(ESD)の10年」とすることが決議され、ユネスコがその推進機関に指名されています。我が国では日本ユネスコ国内委員会や関係省庁が協力し、様々な関係者と連携してESDを推進しています。



2009年度は、昨年度に引き続き、主な対象地域をアジア及びアフリカと設定し、日本の9大学が、開発途上国の大学等と協働してESD国際協力モデルの形成に取り組んでいます。

今年度の特徴として、小学校、中学校、高校、大学の各教育段階において、意欲的な取組が実施されていること、また、個別分野での活動に加えて、国内外の広範な大学・国際機関と連携してESD活動を尺度とした大学評価フレームワーク・モデルを構築しようという新たな取組が行われていることが上げられます。

北海道教育大学
ザンビアの基礎学校におけるESDモデル単元教材の開発
対象国▶ザンビア

国際基督教大学
日本と南アフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築実践の試み
対象国▶南アフリカ

愛媛大学
モザンビークと日本との協働によるグローバル倫理形成を目指したESD教材の開発
対象国▶モザンビーク

宮城教育大学
動物園を活用したマダガスカルESDパイロットマテリアルの構築
対象国▶マダガスカル

三重大学
持続発展教育(ESD)の理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及
対象国▶タイ、タンザニア、ラオス、アラブ首長国連邦

横浜国立大学
RCE国際連携によるESD人材育成プログラムのモデル構築
対象国▶マレーシア、フィリピン

大阪大学
アジアにおけるESD国際協力カリキュラムの開発—高等学校を中心にして—
対象国▶タイ、フィリピン、中国、韓国

東京農業大学
開発途上国の初等教育における食農環境教育の普及と推進モデルの構築
対象国▶カンボジア

北海道大学
持続可能な発展に向けた教育に励む大学の価値と魅力を伸ばす評価モデルづくり
Creation of the Alternative University Appraisal Model based on Education for Sustainable Development
対象国▶アジア・太平洋地域

アフリカ向け案件

2008年に開催された第4回アフリカ開発会議(TICADIV)およびG8北海道洞爺湖サミットを通じて、アフリカ重視の姿勢が改めて強調されました。また、ESDについては、TICADIVの横浜宣言において、国際社会が取り組むべき課題として明記されるとともに、この成果はG8サミットの首脳宣言において重要な貢献であると歓迎されています。

このようなアフリカ重視の潮流を踏まえ、本事業でもアフリカ向け案件を重視しています。これら案件はTICADIVのフォローアップメカニズム(※1)の対象にもなり、また、本事業の成果である活動モデル等を実践的に活用する方策の一つとして、国連大学が行うアフリカ向けESD事業(※2)とも連携を図る予定としています。

北海道教育大学
協力機関▶ルサカ市
ザンビアの基礎学校におけるESDモデル単元教材の開発

国際基督教大学
対象▶ケープタウン大学
日本と南アフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築実践の試み

三重大学
対象▶ムヒンビリ健康科学大学
持続発展教育(ESD)の理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及

愛媛大学
対象▶エドゥアルド・モンドレーン大学
ルリロ大学
モザンビークと日本との協働によるグローバル倫理形成を目指したESD教材の開発

宮城教育大学
協力機関▶チンバザザ動物園
動物園を活用したマダガスカルESDパイロットマテリアルの構築

(※1) http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/ticad/tc4_fum.html
(※2) 国連大学がアフリカにおける教員等を対象に、ESDに関する人材育成を行うプロジェクト



ザンビアの基礎学校におけるESDモデル単元教材の開発

北海道教育大学

現地の学校教育現場で活用できるカリキュラム・教材等の教育協力モデルを開発します。

昨年度は、現地の人々の暮らしにおける水環境の調査や理科・社会科など水に関連する科目のシラバスや教科書の分析を行い、「水」をテーマとしたESD教材集を作成しました。

本年度は、同教材をより学習者中心の教材へと改善するとともに、教材をザンビアの教員に活用してもらうための活用法を記載した教員向けハンドブックを作成します。

具体的には、現地協力校においてESD教材の実験授業を実施し、現地の教育行政官とともに授業分析を行い、更に授業を受けた生徒たちへのインタビューなどを通じて教材を評価します。その上で、開発した各教材について相互に関連づけを行い、現地の小学校教育課程に基づいた高学年用と低学年用の2つの教材を作成します。

本年度の成果物は、ザンビア各地の学校で現

職教員や学校で活動している青年海外協力隊員によって活用される予定です。



動物園を活用したマダガスカルESDパイロットマテリアルの構築

宮城教育大学

アフリカ東南部に位置するマダガスカルは後発の開発途上国であり、豊かで特異な生物多様性とその急速な消失の進行によって知られています。

本活動では、マダガスカルの首都アンタナナリボの国立チンバザザ動物園（以下、チンバザザ動物園）の教育活動で用いるESDマテリアルを作成します。チンバザザ動物園は年間20万人以上が来園する、同国最大にして唯一の国立動物園・自然史博物館で、教育事業のためのすぐれたスタッフや希少な教育資源を数多く有しています。JICAが継続してきたチンバザザ動物園への支援活動のネットワークを背景に、ESDマテリアルを用いたカリキュラムは2010年度から現地でパイロット的に実施されることが期待できます。

マテリアル開発に当たっては、大学、仙台市八木山動物園および学校教員らによるワーキンググループが、チンバザザ動物園教育部、教育省、学校教員らとPD（Participatory Development

参加型開発）のための協議を重ねています。ESDマテリアルは、動物園で使用されること、自然保全の必要性が同国で極めて高いことから、生物多様性保全を中心に構成しています。また、将来的に学校教育にも活用できるESDプログラムを提供するべく、マダガスカルの学校教育の現状を把握し、有用性の高いマテリアルを開発します。



RCE国際連携によるESD人材プログラムのモデル構築

横浜国立大学

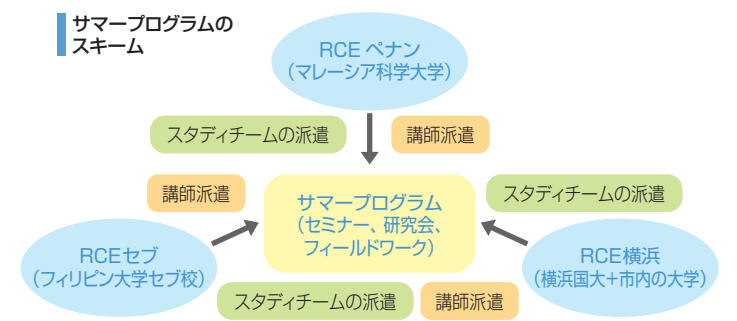
ESDの地域拠点であるRCE間の国際連携を軸に、ESD人材の育成を行うサマープログラムを開発します。

地域においてESDの推進に尽力する組織・団体等のネットワークを構築し、関係者が連携・協力してESDをより効果的に実践していこうとする取組として、国連大学の提唱によりRCE（Regional Centres of Expertise for Sustainable Development）が世界各地に形成されています（2009年12月現在、世界で66の地域が認定されています）。

本活動では、このRCE間の国際連携を、大学の知を活用して推進しようとする取組として、RCE横浜・セブ（フィリピン）・ベナン（マレーシア）の中核大学である横浜国立大学、フィリピン大学、マレーシア科学大学が共同してESD人材育成のためのサマープログラム（モジュール、実施計画、教材）を開発します。このサマープログラムでは、これまで横浜国立大学が蓄積

してきた海外実地教育の経験を基に、RCE国際連携の枠組みを活かして、日本・マレーシア・フィリピンにおけるESD人材の育成を行います。

開発するサマープログラムは、国連大学やユネスコが開催するRCE国際会議、ESD世界会議、ESD国際フォーラム、ユネスコAPEID（アジア太平洋地域教育開発計画）等で発表し、フィードバックを得ると共に、ESDへの国際的な取組において日本とアジアの高等教育機関が果たしうる役割をアピールします。



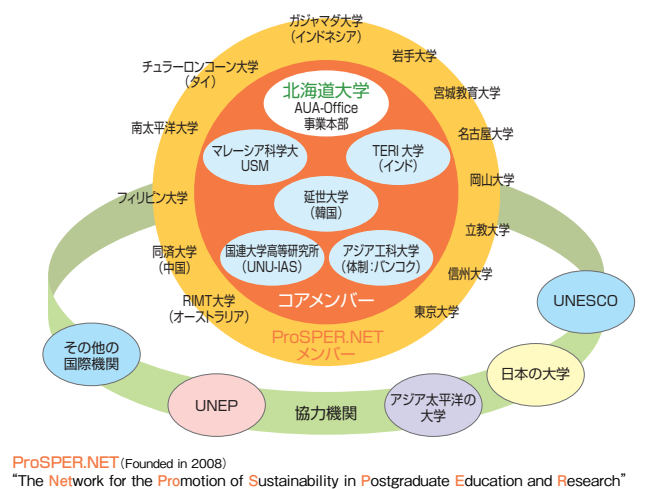
持続可能な発展に向けた教育に励む大学の価値と魅力を伸ばす評価モデルづくり

北海道大学

持続可能な社会づくりが人類の喫緊の課題である中、ESDに従事する大学の価値と魅力の増大、開発途上国の大学によるESD活動の支援を目的として、北海道大学（事務局）、国連大学高等研究所、マレーシア科学大学、テリ大学（インド）、延世大学（韓国）、アジア工科大学（タイ）の6機関が主体となり、ユネスコ他の国際機関等と連携して、アジア太平洋地域の大学によるESDの実践を更に促進するために必要な、大学自身の学びを助ける道しるべとなる「ESD大学評価モデル」を構築します。さらに、同モデルをアジア太平洋地域の大学に広く普及することで、国や地域を超えた大学間の連携を強化し、互いの優れた取組を学び合う共同体「ESDラーニングコミュニティ」の形成を最終目標としています。

これまでに幾度となくコアメンバー会議が開催されたほか、各国のコアメンバーが国内外の会議やシンポジウムなどの様々な機会を捉え、ESD

取組経験の豊富な世界の大学や国際機関などから幅広く意見を聴取し「ESD大学評価モデル」の構築に反映させています。また、当事業はユネスコのDESD第二サイクルのモニタリング・評価フレームワークへの反映と普及促進を図ります。



問合せ先

文部科学省
大臣官房国際課 国際協力政策室

TEL: 03-5253-4111 (内線2610)

FAX: 03-6734-3669

URL <http://www.scp.mext.go.jp/>

E-mail kokkok@mext.go.jp